

株式会社 東芝 社外取締役・株主 グループミーティング

日 時：2019年1月9日（水）13：00－14：00

場 所：株式会社 東芝 本社

出席者：社外取締役 取締役会議長 小林 喜光

参加者：30社・47名（うち国内22社・31名、海外8社・16名）

■小林取締役 冒頭挨拶

取締役会議長の小林でございます。本日はご多忙中のところ、ご足労頂きまして誠にありがとうございます。また、海外からも多くの株主の皆様にお越し頂きましたこと、感謝申し上げます。本日は、当社にとって初めての試みでございますが、社外取締役を代表いたしまして、取締役会議長である私が、株主・投資家の皆様から直接ご意見をお伺いする機会を設けさせて頂きました。ぜひ忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。

なお、私は社外取締役であり、会社法の規定により業務執行の権限を有しておりませんので、業務執行に係るご質問にはご回答できません。あらかじめご了承願います。

東芝は、2015年9月以降、取締役の過半数を社外取締役とし、三委員会は社外取締役のみで構成することとし、取締役会の議長は社外取締役が務めるなど、コーポレートガバナンスの体制を刷新いたしました。

当社のコーポレートガバナンスは、当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上を実現し、もって、株主、投資家をはじめ、従業員、顧客、取引先、債権者、地域社会等当社に係るすべてのステークホルダーの利益に資することを目的としております。

一般的に、社外取締役は、独立した立場でステークホルダーの意見を取締役に適切に反映させることが期待されているものと理解しております。私としても、株主、投資家の皆様と建設的な対話を行うことは重要と考えており、本日は、取締役会議長として、株主、投資家の皆様から直接ご意見をお伺いする機会を設けさせていただきました。

直近の動きとしては、昨年11月8日に、東芝は「東芝 Next プラン」を発表し、再生に向けた今後5年間の行程を示すとともに、その先にある東芝の目指すべき姿を「世界有数のCPSテクノロジー企業」と決めました。

事業を通じて社会課題を解決することにより、企業価値を最大化し、顧客・取引先・従業員・地域社会などの価値と株主価値を向上させ、全てのステークホルダーに対して適切なりターンを還元しながら持続的な成長を実現することが東芝の使命と考えています。

「東芝 Next プラン」の中では、株主にとっての総合投資利回りであるTSRを中長期の指標として重視し、執行役の報酬制度にも反映させることといたしました。これにより、マネジメントが株主の目線に立ち、中長期的な企業価値向上に一層の責任を果たすための動機付けとすることとしています。

今後とも、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主の皆様との間で建設的な対話を継続して行きたいと考えております。

以 上